＜別紙１＞

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

②施設・事業所情報

名称：ポピンズナーサリースクール鶴見		種別：認可保育所	
代表者氏名：開田　知子		定員（利用人数）：　60名	
所在地：〒230-0051　横浜市鶴見区鶴見中央2-6-29　アスク・サンシンビル1F			
TEL：045-716-9531		ホームページ：https://www.poppins.co.jp/	
【施設・事業所の概要】			
開設年月日　2015年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社ポピンズエデュケア			
職員数	常勤職員：　15名	非常勤職員　19名	
専門職員	（専門職の名称）　名	栄養士　3名	
	施設長　1名	保育士　21名	
	主任　1名		
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）	
	0歳児室(1)・1歳児室(1)・2歳児室(1)・3歳児室(1)・4歳児室(1)・5歳児室(1)・調理室(1)・調乳室(1)・医務室(1)・事務室(1)・乳幼児トイレ(3)	冷暖房・床暖房・空気清浄機・段差昇降機・車椅子利用可ユーティリティー	

③理念・基本方針

【理　　念】

働く女性を　最高水準のエデュケアと介護サービスで支援します

【基本方針】

ポピンズナーサリースクール目標：人生で最も重要な時期の人間教育を目指します

『寛容な人間・聡明で愛情深い人間・探求心旺盛な人間・グルーバル社会で活躍できる人間』

④施設・事業所の特徴的な取組

【ポピンズ教育アプローチ】

＜知力８＞

言　　語・・・思考やコミュニケーションの手段として言葉を使いこなす力

音　　楽・・・音楽を楽しむ（鑑賞、演奏、作曲）力

論理数学・・・物事を論理的に考え、算数や数字を効果的に扱う力

空間構成・・・図形を変形・操作したり、平面から立体を構成する力

身体運動・・・身体運動を通して、自分の体を自由にコントロールする力

自然科学・・・実験、探索、発見を通して自然を感得する力

社 会 性・・・他者の存在や多様性を認識し、他者とよい関係を築く力

自己受容・・・自分自身をふりかえり、ありのままの自分を受け入れ、自己肯定感をもつ力

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年　6月30日（契約日）　～ 2023年　3月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（平成29年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

学童と連携し、就学前に利用を進め継続性のある配慮を行っている

学童との連携に取り組んでおり、子どもが就学前に学童の利用ができるようにしている。保護者によっては学童について認識のない場合もあり、夏休み以降の個人面談時に学童の利用について話をして、利用希望のある場合は見学を進めてサービスの継続を大切にしている。施設との連携がある場合は、学童から園に迎えが来て就学前に通学できるように取り組み、子どもが就学前から慣れ親しむことでサービスの継続性につながっている。園としては特定の施設を進めることはせず、保護者の決定を尊重している。

子どもが伝統文化に触れ、様々な体験ができる機会づくりをしている

保育士の得意なことに着目し、それを活動の中に取り入れて子どもたちに伝え、様々な体験をすることができるように取り組んでいる。施設長も指導にあたり、絵画では一人ひとりのスケッチブックを準備して保管しその変化などが見られるようにしたり、茶道では茶器に触れ１月には初釜も行なったり、ひな祭りでは、七段飾りのお雛様を飾り子どもたちと一緒に片付けをするなど、楽しみながら伝統文化に触れる機会が得られるようにしている。

栄養士と連携し食育に力を入れて取り組んでいる

本社の作成による食育計画をもとに、栄養士が年齢に応じた計画をたて担任と協力を得て食育活動を実施している。コロナ禍においては、活動内容に制限が設けられている中でも工夫を凝らしながら、野菜の栽培や調理、食材の紹介や食事マナーを伝える機会も取り入れ、子どもが様々な体験を通して食に興味を持つことができるようにしている。毎月の誕生日ケーキは季節の果物を使用して可愛らしいデコレーションを施し、子どもの楽しみになるように取り組んでいる。

今後期待される点

職員の確保について課題としている

今年度後半は離職や移動した職員が多く、施設長や主任も保育に携わる場面が多く見られた。反面、施設長が保育に入ることで職員への良い刺激にもつながっている。採用に関しては、法人の人事主導で進めているほか、区とも相談しているが、近隣には保育園が多く、横浜や都内へのアクセスの良いこともあり人材確保が難しい現状であるが、解決に向けた取り組みに期待したい。

コロナ禍において保護者との会話等が少なくなっていることを課題としている

コロナ禍のため、朝の受け入れは玄関での対応となっており、混雑への配慮等から保護者との会話が少なくなっていることが、保護者アンケートの意見からも聞かれている。感染状況を踏まえながら、必要に応じてコミュニケーションを図ることができるような取り組みが望まれる。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今年度は、横浜市子ども青少年局監査課による自治体実施監査受審を先行としたの

ち、本評価を同年度に受審した功績は大きいと感じている。事業所運営状況並びに保育について指摘事項なしという評価後、利用者アンケートを実施する本評価システムはハード面のみならず利用者目線での評価も反映されることから、運営7年を経過したこの時期に次年度に向けての課題を現場として明確に捉える貴重な機会となった。コロナ禍継続の中、5類移行後新たなフェーズを迎える保育業界として、『職員がスキルを伸ばせる環境』『利用者が安心して預けられる環境』『オープンな保育施設環境』は全保育施設の課題となると実感する貴重な受審であった。

⑧第三者評価結果

別紙２のとおり